



当院は『日本血液学会血液研修施設』『日本臨床腫瘍学会研修認定施設』です。

○血液・免疫内科 勤務医師紹介

役職	医師名	卒業大学名	卒年	取得資格及び得意分野
名誉院長	西尾 晃	京都府立医科大学	S48	医学博士、日本内科学会認定内科医、日本血液学会近畿地区評議員
部長	足立 陽子	京都府立医科大学	H4	日本内科学会認定内科医 総合内科専門医、日本透視子会専門医・指導医、日本血液学会認定血液専門医・指導医、日本血液学会近畿地区評議員、日本臨床腫瘍学会暫定指導医 ICD認定医、京都府立医科大学臨床准教授 日本腹膜透析学会評議員
医員	島 悦子	鹿児島大学	H6	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本血液学会専門医

※その他、非常勤医師有

◎当院の血液・免疫内科とは

当院は日本血液学会教育認定施設の指定を受けており、症例数は年々増加傾向にあります。10万人の診療圏を守る基幹病院として、総合病院力を生かした血液内科診療が可能な医療機関のひとつです。今後、さらに専門分野を伸ばしながら、より良い医療を提供できるよう、地域に依っていきたく考えています。

急性白血病や悪性リンパ腫に代表される血液疾患では、主に寛解導入、移植治療を入院で行っています。これらの患者様に対して、最新の化学療法を行うとともに、平成7年以降はより高い治療効果を得るために末梢血幹細胞移植を積極的に行い、治療成績が更に向上しています。また、こうした強力な抗癌剤療法を安全に行うために、無菌室が4室設置されています。このような先端医療を受けるべく、他市町村からも多数の患者様が紹介されています。外来の化学療法についても専用の部屋(化学療法室)を設け、化学療法ナースにより快適で安全な治療を行っています。一方、超高齢者や治癒を望めない患者様に対しては、できる限りそのライフ・スタイルを尊重した治療を心がけています。

膠原病を中心とした自己免疫疾患は、発症時や増悪時には入院の上、免疫抑制剤による治療のほか、透析技術を駆使した血漿交換、免疫吸着など最新の治療を行っています。また、合併症に対しては、当科が循環器内科消化器内科、呼吸器内科を備えた総合内科であることから腎臓、肺、消化器、心臓の各専門医との連携のもとで、早期発見と治療に努めています。

◎血液・免疫内科の特色

当院では平成26年度より総合内科診療に取り組んでおり、マンパワーの少ない血液内科や内科分野を幅広くカバーしております。血液内科医が専門分野に特化した診療に取り組めるのも、このような背景のもとといえます。

中でも、血液内科・免疫治療分野においては、指導医が配置され、近隣の医療機関のセントラル病院的役割を担うと共に、兵庫県北西部エリアの血液疾患、また他府県からの紹介患者数も増加傾向にあり、なくてはならない病院の一つとして位置づけられています。

当院では、日本成人白血病治療共同研究グループ(JALSG)、日本造血幹細胞移植研究会(JSCT)の参加施設であり、そのプロトコールに沿った最新の治療を行っています。急性・慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの造血器悪性疾患に対しても、同種を含めた末梢血管細胞移植を含む化学療法から、新規薬剤による治療、高齢者に対する緩和的な治療まで行っています。再生不良性貧血のような骨髄不全の方には、免疫抑制療法による寛解導入を図っています。

◎症例数(平成2016年度実績)

血液内科入院患者数常時15名程度、年間延べ入院患者数300名程度。

再生不良性貧血	3件	慢性白血病	10件
特発性血小板減少性紫斑病	1件	慢性骨髄増殖性疾患	0件
骨髄異形成症候群	8件	骨髄移植	0件
悪性リンパ腫	50件	骨髄穿刺・生検	73件
急性白血病	10件	全身性エリテマトーテス	0件
多発性骨髄腫	11件	慢性関節リウマチ	12件

※外来50件

◎勤務医からのコメント

規模の大きな病院となれば、それぞれの診療科に分かれ、専門的な診療を行います。当院では、総合的な観点より、内科分野を専門とするそれぞれの医師が得意分野を生かした勤務形態を取り入れています。「内科」の言葉のみでは、総合診療をイメージされるかもしれませんが、実は専門診療科が集まる総合的な医局とイメージして頂ければ幸いです。例えば、内科所属医師のケースで、血液内科のみに従事する医師や、透析管理、糖尿病といった専門分野と共に、一般的な内科症例を幅広く網羅する医師もおります。外来は、3診制を取り、内科のオーソリティとして、かかりつけ医の役割を果たしながら、合併症を持つ患者様に対する総合的な診療までを網羅しています。また医師の希望により、専門外来の開設も積極的に行っています。



内科診療部長 兼 血液・免疫内科・
腎臓内科・人工透析室長 輸血部長
足立 陽子

より、総合的に経験を積みたいとお考えの方には、最適な環境といえます。希望者においては内科領域として、ICUの管理、化学療法、緩和ケアも経験する事が出来ます。勤務内容は、それぞれの医師の目指す方向性により、携わりたい分野の比重と業務量を考え、カスタマイズする為、医師それぞれの勤務状況が多少異なりますが、なるべく御希望を取り入れた形にて対応しております。それぞれ専門医や指導医もおりますので、相談や指導を受ける事も可能です。

◎勤務状況はいかがですか？

内科全体を平均すると、外来診療は、週1~2コマ担当、外来数は40~50名(再診者・投薬のみも含む)、病棟管理は1名あたり10名程度を担当しています。また、それぞれの医師が、専門分野である血液外来、透析外来や糖尿病外来と、独自のスペシャリティを發揮する専門外来も担当しています。血液内科は激務と思われる診療科に写るかもしれませんが、しかし当院では、内科全体の総合力を生かし、診療にあたっております。病院としても血液内科診療への配慮も多く、化学療法室や無菌室の設置など、積極的にバックアップしてくれる環境です。そのような環境より、単科では疲弊しがちな血液内科も、沢山の医師との連携により、一人に偏らない診療体制が築けています。これまで身につけた血液内科としての専門性を、体力勝負の多忙さからなくしてしまわずに、医師間の連携の下で無理をしない長続きするスペシャリティとして生かしていける環境と言えます。

◎救急対応やオンコール状況はいかがですか？

近年、血液内科は絶滅危惧種ともうわさされる程、医師数の減少が著しく、兵庫県神戸市北西エリア全域においても、血液内科診療を担う医療機関が少なくなりました。数箇所をみの医療機関が対応している中、当院はそのセントラル的役割を果たしており、大学病院等からの患者紹介も多い状況となっております。しかしながら、内科医師のバックアップにより、当直回数は他の診療科同様、月2回程度となります。オンコールについては、主治医でなければならぬケースに対応しており、基本は当直医師のバックアップの下、連携しながら対応しています。よって頻繁に呼び出され、オフが取れない環境ではないと言えます。

◎診療状況についてもお聞かせください。

外来では最新の化学療法を提供、専門ナースを配置し取り組んでおります。末梢幹細胞移植にも積極的に携わっており、治療効果や実績も向上しております。強力な抗がん剤治療を行う為、無菌室を4室設置するなど、病院全体として血液内科診療のバックアップ体制も整っております。自己免疫疾患は、発症時や増悪時には入院の上、免疫抑制剤による治療のほか、透析技術を駆使した血漿交換、免疫吸着など最新の治療を行っています。膠原病を中心とした合併症等においても、総合病院の強みを活かし、腎臓、肺、消化器、心臓の各専門医との連携のもとで、早期発見と治療に努めています。血液内科診療や免疫治療は、内科疾患を総合的に診療するスキルが要求される診療科となります。逆を返せば、血液内科診療に従事できるのは、内科の総合力ともいえます。当院内科医師全体がそれを理解し、バックアップのある環境は血液内科医にとって、勤務しやすい環境と言えます。外傷手術患者等とは違い、患者様にとって見えにくい診療科目であるだけに、インフォームド・コンセント力が向上することより、レジデントも積極的に診療に携わってくれます。

◎勤務先をお探しの方へ

当院を大学病院の派遣先と認知されている方も多いと思いますが、現状では、一般公募による採用に積極的に取り組んでおり、学閥もなく診療科ごとの軋轢も感じさせません。また勤務内容についても、医師の経験年数や裁量、希望に合わせて、カスタマイズしており、将来開業を目指す方や資格取得希望の方、子育てとの両立を希望され、勤務制限のある方等、さまざまな働き方をご提案しております。